

せいけん
詩集

第百三十二篇

作：近藤せいけん

「障子しょうじに浮かぶう ゴウヤ」

秋あきが近い

障子しょうじにゴウヤの陰かげが映うつる

しずしずと 風かぜにゆれて

涼すずやか

どこかで 鈴虫すずむしが鳴なき始めた

障子しょうじに浮かぶ 陰かげ

見る 小さな幸さいせ

今年のゴウヤは 少し小さい

二〇一一年八月の

ゴウヤ

来年らいねんも元も気ねんよく 会あいたい

障子しょうじに浮かぶ ゴウヤ

小さな 秋あき

小さな 幸さいせ